



美馬ロータリークラブ週報

8月19日 火曜日

Vol.402

例会出席者	19名（会員数28名）	出席率 67.8%
メーキャップ	なし	修正出席率 67.8%
ゲスト	ありません	

■会長挨拶

今日は大変暑い一日でありました。皆様、お盆はいかがお過ごしでしたか？

私は母の三回忌で忙しいお盆でありました。

さて、会員増強について、今日はお話させていただきます。

クラブ会員増強委員会の役割は、会員増強のための行動計画を立て、これを実施することです。会員がいて初めて、クラブは効果的な活動を行うことができます。地域社会に奉仕し、ロータリー財団を支援し、クラブレベルを超えたロータリーのリーダーを育成できるかどうかは、クラブの「会員基盤の規模と強さ」に直接関係しています。

- 1、会員は質か量か
- 2、会員増強に秘策はあるのか
- 3、会員増強は、急がば回れ

※我々は心を一つにした美馬ロータリークラブを目指そう。

「三つの柱」

- 1、ともにコミュニケーションを深め、心を一つにしていきましょう。
- 2、会員の知恵と工夫で成長していきましょう。
- 3、何事においても「チャレンジ」していきましょう。

■幹事報告

◇到着書類 美馬市社協から～美馬市ボランティア市民活動センター運営委員の水洗について
ロータリー文庫 資料目録(総括ダイジェスト版)

◇到着週報 鴨島中央RC/脇町RC

■委員会報告

- 美馬ロータリークラブゴルフ同好会 谷さん
来週のコンペ参加者をお待ちしております。

■卓話（北室淳子会員）半田そうめんについて

阿波の手延べそうめんは、約200年ほど前の江戸後期には、すでにその名を広めていました。

時の将軍に阿波の名産品として献上された記録もあり、代表的な阿波の味として現在に至っています。

この伝統的な「技」は現在も「半田そうめん」の名で受け継がれています。

江戸期の国道吉野川

川 船

徳島県には一級水系川「吉野川」があります。幹川流路延長 194 km、流域面積 3,750 km²の河川は、麻植郡を中心に勢力を広げた忌部族の時代から、阿波の交通の大動脈でした。その後の江戸時代以降には、この傾向はさらに強まり、半田から徳島へ下る船には、藍玉、炭、マユ、薪などの物産を運び、帰り船（上り）には、干し鰯、米、塩、わかめ、いりこなどを持ち帰っていましたが、徳島からの帰り船は季節により半田に帰るまでに、一週間を要す事もあったようです。



灯台の役割を果たした小野浜港常夜灯の風景

船には、港が必要で半田には半田川河口との合流点に重要中継点として小野浜港を作り、小野浜港は江戸時代中期より、吉野川帆船交通の発達により発展し、半田川流域の玄関口としてにぎわっていました。この常夜灯は大正 3 年（1914）3 月 25 日の鉄道開通まで 88 年間、川灯台としての役割も果たしました。この常夜灯には、「文政九成年五月吉日」と彫られています。

200年の歴史 半田素麺の始まり

諸説がありますが、天保の時代、当時小野浜港より撫養方面へ運航していた平田舟の船頭が、家族の自給用や副業として行かせたのが始まりだといわれています。製麺の方法は、約 270 年程昔、大和の国、奈良県磯城郡三輪町から淡路の福良付近にある撫養（現在の鳴門）に入り、板西、市場各地を廻って、ここ半田の地に、その製法が伝えられたといわれています。

戦中戦後の大波乱 半田素麺の歩み



吉野川を上下する平田船により、原料の小麦粉、塩、油などの入手は容易で、船頭家の副業であった小野を中心に、田井、逢阪、東西久保、木ノ内へと普及しました。明治四年の生産量は 56 トン。小麦粉の製粉は、井川谷の水車で行っていました。昭和八年の世界恐慌で、生産は激減しましたが、その後回復し生産高 675 トンに達しました。戦中戦後の大混乱を経て、昭和二十九年には半田手延べ素麺協同組合が再編され、足踏み式の製造から電動機械化、乾燥設備の新設などが進められました。

■ ニコニコ

- 田中会員（誕生祝いありがとうございました）
- 北室会員（誕生祝いありがとうございました）

次回例会
プログラム

2014年8月26日（火） 18:30からレストラン西岡
卓話 澤田篤也さん（クラブアッセンブリー/アメリカ旅行について）

遠藤公信・小田教仁・澤田篤也・杉原節子・田野寿一・林秀樹・藤田茂樹・三好亘
山内浩司

☆ 欠席の会員はメイクアップをお願いします。次回例会に欠席の会員は出席委員長までご連絡をお願いします。